

学校教育アンケートの結果より

《学校目標について》

- ① 学校は、相手を尊重し、相手の立場に立って行動できる子どもを育てる教育活動をしている。

選択肢	保護者		地域の方	教職員
	回答者数	回答率	回答率	回答率
そう思う	48	64.0%	83.3%	80%
ややそう思う	26	34.7%	16.7%	20%
あまりそう思わない	1	1%未満	0	0
思わない	0	0	0	0
わからない	0	0	0	0

- ② 学校は、進んで学習し、目標に向かって最後までやりぬく子どもを育てる教育活動をしている。

選択肢	保護者		地域の方	教職員
	回答者数	回答率	回答率	回答率
そう思う	45	60.0%	80%	80%
ややそう思う	28	37.3%	20%	20%
あまりそう思わない	2	3%	0	0
そう思わない	0	0	0	0
わからない	0	0	0	0

- ③ 学校は、心身の健康と安全な生活に心がける子どもを育てる教育活動をしている。

選択肢	保護者		地域の方	教職員
	回答者数	回答率	回答率	回答率
そう思う	47	62.7%	83.3%	80%
ややそう思う	24	32.0%	16.7%	20%
あまりそう思わない	4	5%	0	0
そう思わない	0	0	0	0
わからない	0	0	0	0

- ④ 学校は、ホームページ(HP)や各種便りによって積極的に情報を発信し、保護者に教育理念や学校運営に対する考え方を明らかにしている。

選択肢	保護者		地域の方	教職員
	回答者数	回答率	回答率	回答率
そう思う	61	81.3%	66.7%	100%
ややそう思う	13	17.3%	16.7%	0
あまりそう思わない	0	0	0	0
そう思わない	1	1%未満	0	0
わからない	0	0	16.7%	0

《組織運営について》

- ⑤ 学校は、保護者がいつでも学校を訪れたり、相談したりすることのできる環境づくりに努めている。

選択肢	保護者		地域の方	教職員
	回答者数	回答率	回答率	回答率
そう思う	43	57.3%	66.7%	60%
ややそう思う	29	38.7%	16.7%	40%
あまりそう思わない	0	0	0	0
そう思わない	1	0	0	0
わからない	2	3.0%	16.7%	0

- ⑥ 学校は、家庭との連携を密にし、共に子どもを育てようという姿勢をもって教育に取り組んでいる。

選択肢	保護者		地域の方	教職員
	回答者数	回答率	回答率	回答率
そう思う	41	54.7%	66.7%	53.3%
ややそう思う	30	40.0%	16.7%	46.7%
あまりそう思わない	4	5.0%	0	0
そう思わない	0	0	0	0
わからない	0	0	16.7%	0

- ⑦ 学校は、子どもたちにわかりやすい授業をしている。

選択肢	保護者		地域の方	教職員
	回答者数	回答率	回答率	回答率
そう思う	41	54.7%	50.0%	66.7%
ややそう思う	30	40.0%	16.7%	33.3%
あまりそう思わない	0	0	0	0
そう思わない	0	0	0	0
わからない	4	5.0%	33.3%	0

《学習面について》

- ⑧ 学校は、一人一人に応じた学習の充実を図っている。

選択肢	保護者		地域の方	教職員
	回答者数	回答率	回答率	回答率
そう思う	29	38.7%	33.3%	53.3%
ややそう思う	35	46.7%	16.7%	46.7%
あまりそう思わない	6	8.0%	0	0
そう思わない	1	1%未満	0	0
わからない	4	5.0%	50.0%	0

- ⑨ お子さんは、目標をもって前向きに学習に取り組んでいる。

選択肢	保護者		地域の方	教職員
	回答者数	回答率	回答率	回答率
そう思う	29	38.7%	66.7%	53.3%
ややそう思う	34	45.3%	0	40.0%
あまりそう思わない	10	13.3%	0	6.7%
そう思わない	2	3.0%	0	0
わからない	0	0	33.3%	0

- ⑩ お子さんは、家庭学習の習慣が身に付いている。

選択肢	保護者		地域の方	教職員
	回答者数	回答率	回答率	回答率
そう思う	27	36.0%	50.0%	40%
ややそう思う	32	42.7%	0	60%
あまりそう思わない	15	20.0%	0	0
そう思わない	2	2.0%	0	0
わからない	0	0	50.0%	0

- ⑪ お子さんは、楽しく英語の学習をしている。(1・2年)
お子さんは、楽しくプログラミング学習をしている。(3年以上)

選択肢	保護者		地域の方	教職員
	回答者数	回答率	回答率	回答率
そう思う	43	57.3%	50.0%	40.0%
ややそう思う	23	30.7%	0	53.3%
あまりそう思わない	3	4.0%	0	6.7%
そう思わない	3	4.0%	0	0
わからない	3	4.0%	50.0%	0

《生活面について》

- ⑫ お子さんは、学校で楽しく生活している。

選択肢	保護者		地域の方	教職員
	回答者数	回答率	回答率	回答率
そう思う	52	69.3%	33.3%	73.3%
ややそう思う	19	25.3%	33.3%	26.7%
あまりそう思わない	4	5.0%	0	0
そう思わない	0	0	0	0
わからない	0	0	33.3%	0

- ⑬ お子さんは、思いやりの心が育っている。

選択肢	保護者		地域の方	教職員
	回答者数	回答率	回答率	回答率
そう思う	46	61.3%	66.7%	53.3%
ややそう思う	26	34.7%	16.7%	46.7%
あまりそう思わない	3	4.0%	0	0
そう思わない	0	0	0	0

わからない	0	0	16.7%	0
-------	---	---	-------	---

- ⑭ お子さんは、自分の思いや考えを進んで伝えることができている。

選択肢	保護者		地域の方	教職員
	回答者数	回答率	回答率	回答率
そう思う	27	36.0%	50.0%	20%
ややそう思う	28	37.3%	33.3%	60%
あまりそう思わない	18	24.0%	0	20%
そう思わない	1	1%未満	0	0
わからない	1	1%未満	16.7%	0

《健康安全について》

- ⑮ お子さんは、安全な生活をおくることができている。

選択肢	保護者		地域の方	教職員
	回答者数	回答率	回答率	回答率
そう思う	49	65.3%	83.3%	46.7%
ややそう思う	21	28.0%	0	53.3%
あまりそう思わない	4	5.0%	0	0
そう思わない	1	1%未満	0	0
わからない	0	0	16.7%	0

- ⑯ お子さんは、進んで運動をしたり、体を動かして遊んだりしている。

選択肢	保護者		地域の方	教職員
	回答者数	回答率	回答率	回答率
そう思う	35	46.7%	16.7%	46.7%
ややそう思う	26	34.7%	16.7%	53.3%
あまりそう思わない	12	16.0%	16.7%	0
そう思わない	2	3.0%	0	0
わからない	0	0	33.3%	0

《健康安全について》

- ⑰ お子さんは、衛生的で健康的な生活習慣が身に付いている。

選択肢	保護者		地域の方	教職員
	回答者数	回答率	回答率	回答率
そう思う	24	32%	16.7%	40.0%
ややそう思う	47	62.7%	33.3%	53.3%
あまりそう思わない	3	4.0%	0	6.7%
そう思わない	1	1%未満	0	0
わからない	0	0	50.0%	0

- ⑱ その他

東芳小学校をよりよりよくするためにご意見がありましたらご記入下さい。
今後の教育活動の参考にさせていただきます。また、日頃の教育活動に対してご感想やご要望等がございましたらご記入下さい。（自由記述です。）

(保護者より)

- いつもありがとうございます
- これからもよろしくお願い申し上げます。
- 子供の良いところも悪いところもしっかり見てくださってありがとうございます。担任の先生や校長先生と話していると生徒に寄り添ってくれていることが伝わります。引き続きよろしくお願いいたします。
- 教育相談でも、家庭ではわからない良い面をたくさん教えてくださり、ひとりひとり細かいところまでみてくださっているんだなぁと大変ありがたかったです。縦割り班で行っていた全校遠足などの校外活動も、他学年との活動をととても楽しく行っていたので復活させていただきたいです。
- 先生方は大変だと思いますが宿題をわすれる子供、宿題をやってこない子供達に放課後に教室で自主的にやる時間を与えて欲しい。引き続きご指導をお願いします。
- お配りして下さるプリント等（東芳っ子等）にも学校の QR コードや URL を付けて配ってほしいです。引き続きご指導よろしくお願いいたします。
- いつも子供たちを気にかけていただきありがとうございます！ 子どもたちからたくさん先生の名前が出てくるので細かく関わってくださっているんだなって思います。

(教職員)

- 子供と話す時間を増やす。
- 支援員を補充して欲しい

(地域の方)

- PTA から外れて 40 年余り経ちました。子供達と接する機会は登下校、公民館や町内の行事、たまにある授業参観しかありません。現状がどうなっているのか把握出来ません。特に授業参観では我々の時代とは大変変わりで、資材には恵まれ、羨ましいかぎりです。特に東芳小は少人数ですので、先生との距離が近くコミュニケーションが取りやすいのではと思います。
核家族、共稼ぎ、が常態の現実、学童保育、塾通いなど、学童自身が振り回されて落ち着く暇が無いのではないかと心配です。それらをコーディネートするのは親になります。大変です。また、子供(親、先生)のかけ込み場所はあるのでしょうか？
先生の負担を軽くする為に、地域町会、公民館等を活用し教育活動の支援をお願いしては如何でしょうか。元気な高齢者が控えているはずです。
- 通学路と町内の危険箇所の改善は学校、PTA と連携を密にして市、県に要望、陳情できればと思っております。今後ともご協力頂きます様、よろしくお願いいたします。
- いつも元気な挨拶には、私も元気になります。
- コロナにより地域との繋がりの大事さが改めて必要だと実感している保護者や地域住民が多くいると感じています。今後、コロナ以前よりも増して地域で子供達を育てるために新しい仕組みづくりができることを期待します。

Ⅳ アンケート結果を受けての考察

【保護者、地域との連携について】

保護者の皆様のアンケートの結果から、学校における教育活動に対しては、多くの項目で、ほぼ90%以上の肯定的評価を得ることができました。学級便りや学校だより、ホームページ等を通じて学校での様子を随時発信するとともに、授業参観・学級懇談会、教育相談、各種行事等において開かれた教育現場の実践することで、地域やご家庭からの高い評価を得る結果をいただいたと感謝いたします。今後においても、子ども一人一人に寄り添うとともに、家庭の保護者にも寄り添い、地域との連携を図りながら、学校と地域が一体となって、共に子ども達を育てていけるよう努力していきたいと思っております。

- 年間を通して、学校だよりや学年だより、保健だより等を発行し、保護者へ学校の様子や学校運営に関する考え方を情報発信してきました。学校ホームページにおいては、ほぼ毎日更新して行くことができたと思っております。今年度（2月末現在）、すでに約29万件のアクセス数となるなど、例年を大幅に超えるアクセスをいただきことができました。行事等、折に触れ保護者の方と会話する際にも好評を得ることができました。
- 子どもたちの安全・安心に関する情報（不審者・下校時刻変更など）などの緊急にお知らせしたい内容についてメール配信を行っています。今年度は、突発的な雷雨等への対応などでメール配信を利用して全校児童を安全に下校させることができました。今後も、迅速な対応に心掛けていきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。
- 次年度以降は、子どもの安全安心を守るため、通学時間を変更することにしました。PTA役員や学校運営協議委員ともしっかり協議し、慣例のように残っていた集団登校の集合時刻等を改め、職員の勤務時間の適正化を図ることも併せて、4月から運用の運びとなっています。

【学習面について】

ほとんどの項目で肯定的な評価を得る一方、アンケート項目⑨・⑩にある、お子さんは、⑨「目標を持って前向きに学習に取り組んでいる」（84%）、⑩「家庭学習の習慣が身についている」（79%）の項目では、否定的な評価が多少見られました。懇談会等での話から、共働き世帯も多くなり、子どもの学習の様子を見るのが少なくなり不安を抱えている保護者も少なくありません。

- ⑨について学校では、個々に目標を設定させる際には、まずは、自分自身としっかりと向き合わせることから指導してきました。自分の良さに気づき、その伸長を目指すことがベースとなって、自分事として自分に合った目標が設定できると考えています。そして、目標を持たせる際には、目標達成に向けての具体的な行動目標を一緒に明記させてきました。しかし、世界的なパンデミック（新型コロナウイルス感染症の猛威の中）の時期を長く過ごし、先を見通すこともままならない中、児童も先を見通して目標を設定することが難しい状況にあったとも考えられます。感染症の猛威は、閉鎖的な空間での学習環境を作り出し、これまでの学習の形態さえも変更を余儀なくさせていったと言っても過言ではないでしょう。そのような中でも、本校においては、社会の状況や児童の実態に合わせて、学習環境の改善を図ってきました。新型コロナウイルスが第5類に移行してからは、学校での教育活動も、より個別に、より協働的に、学習の環境を変えてきています。学びの場では、ICTの積極的な活用、地域の人材活用、対外的体験活動の再開、学びの場の再構築（縦割り班の活動、学び合い活動、発表会等の再開など）をしてきました。多

様な価値観が溢れる現代において、自立していくためには自分をしっかり理解することが大切になってきます。環境の構築では、人と人とのコミュニケーションを通して、自他の価値観を比較検討する場を、異学年児童同士の様々な体験で醸成していけるようになってきています。そのことが、子どもたちの情操教育には大きく役立ち、自分自身とより向かい合うことができるようになってきている要因だと感じています。

- ⑩においては、家庭での時間の使い方が大きく変わったことが一因として考えられます。子どもの遊びの質が変化してきています。遊びの場が、屋外から屋内に変化(感染症の影響が大きい)したことは、屋内などで集団の中で行う遊びから、屋内での個別に行う遊びに移行したと考えることができます。大人にとっても、都合がいい面もあります。屋内で他人と接することがなければ、ある一定の安全面の確保できます。また、ゲーム等の端末を与えておけば、子供はいつまでも勝手に時間を過ぎてくれるのです。その上、大人自身の時間も確保できるといった双方にメリットがあることは確かです。しかも、それは子どもにとっては、とても興味を引くものであり、刺激も多くあります。自然の流れで子どもたちはその世界にのめりこんでいきました。その結果、一方的で刺激的なデジタルの情報は脳を刺激し、更に欲求を掻き立てていきました。そしていつしか、コツコツと学習に取り組むようなアナログな事象への興味や関心が薄れ、その大切さが見失われていったように思います。家庭学習が身につかないのもそのような流れが大きく影響していると考えます。そして、学習が定着しないと考えるのは、与えられた情報の中でしか生きられない子供にとっては自然の摂理のように感じてなりません。何とかそういった状況を打破しようと保護者の方も様々な方策を試みていると思いますが、「端末を取り上げること」、「時間を制限すること」等に終始してしまうことが多く、根本的な解決策に至っていないというのが現状ではないかと考えます。

そこで、学校においては、端末機器等を、子どもたちから単に遠ざけるという発想ではなく、効率よく使用させるといった発想の転換を図りました。授業内での活用(機器の整備、授業毎の指導計画の中への位置づけ等)はもちろん、家庭学習でも積極的に活用を図ってきました。子どもたちの機械操作への理解は速く、学習の道具(手段)として活用できるようになり、学習の様々な活動で効果的な活用が図られるようになりました。家庭学習においてもロイロノートやスタディサプリなどの活用で学校と家庭の学習習慣の形成にもつながりが出てきていると感じています。家庭学習や協働的な学びの場には欠かせないツールとなってきています。

- 共同研究を通しての豊かな情操を育てる指導について
～新聞等の図書資料に親しむ場の工夫をとおして～
 - ・ 「読む力は生きる力」と言われるように、読書をすることによって、書いてあることを正しく読み取る読解力や語彙力、相手に正確な言葉遣いで用件を伝える表現力、そして、想像力や思考力、豊かな心など様々な力が児童に育つと考え、推進してきました。
 - ・ 書いてある内容を正しく読み取る読解力の育成に重点を置き、読書活動の充実に努めてきました。全校で読書活動推進に取り組み、全校集会で、本を紹介したり、読書数の多い児童を称賛したりするなど読書の量と質の向上に努めてきています。学級でも、本に親しんでいる様子が多く見られてきました。
 - ・ 児童の学習活動を支える学校図書館を目指し、国語以外でも、調べ学習に活用しやすい本が見つけやすいように設置されています。また、そのまま学習できるようなスペースも設け、積極的な活用を図っています。

- ・ 月1回の読書タイムには、学校司書やボランティアによる読み聞かせが行っています。学校司書と読み聞かせのボランティアの方々がクリスマスお話を実施するなど、子どもたちの興味関心が高まる一因となっています。
- ・ N I Eの活動と連携し、子どもたちが活字に向かい合う機会を設けました。様々な情報から、様々な発想が持てるように、日付ごとに新聞をストックし、いつでも読めるようにしています。初めは抵抗があった児童も、少しずつ足を止め新聞を見るようになり、自分で選んだ記事を、みんなに紹介できるようにもなっています。

【生活面・健康安全等について】 <豊かな心の育成について>

- 道徳の時間を大切にし、道徳的価値やそれに基づいた人間としての生き方や行動の仕方について自分事として考え、道徳的な実践力が育つよう努めています。道徳が教科化したことで、これまでの授業を見直していきました。多様な子どもたちの多様な意見を授業の場で取り上げ、葛藤させることでより良い道徳的な価値を見出していけるように、授業の中で、実際の生活場面を想定して考えられるような工夫を盛り込んでいきました。その他の様々な教育活動でも、小規模校の良さである異学年の交流などを通して、今後も豊かな心の育成を目指して取り組んでいきたい。
- 道徳の授業以外にも、人権擁護委員による「人権教室」（6年）では、様々な生活の場面での思いやり等の大切さに気づかせ、自分の思いを表現したり、友達の考えを聞いて、自分の考ええと比較したりして、理解を深める場面を持つことができました。
- 生活委員会、集会委員会が中心となって、それぞれの時期に合わせて「がんばりツリー」政策を行っています。自分の願い事や頑張ったことをカードに書いてポストに入れると、委員会の6年生が昼の放送で読み上げて、思いやりのある言動などをみんなで共有しています。子どもたちがお互いの良さががんばりを認め合い、励まし合う環境の育成に貢献する取り組みとなりました。
- 年間の前期と後期に、なかよし弁当の日を設定しています。異学年集団での活動を子どもたちも大変楽しみにしています。その他にも、通年で清掃や集団登校など縦割り班活動の中で、子ども同士のコミュニケーションを大切にしてきました。上級生が下級生に優しく接することが良き伝統となり、思いやりの心が育ち、楽しく活動することができています。

【健康で安全な生活について】

- 運動好きの子供を育てたいという思いもあり、進んで運動する児童を育てるために体育活動の充実に努めてきました。健康増進を目的に全校で「マラソンタイム」や「なわとびタイム」に取り組むことができました。業間の時間、全校児童が校庭を元気に走ったり、体育館で積極的になわとびをしたりする姿が見られました。それぞれ記録会では、どの子ども自分に合った目標を設定し、がんばることができました。スーパーティーチャーの来校日を子どもたちは楽しみにしていて、水泳の授業では、泳法の工夫など実演を交えて指導していただき泳力の向上につながっています。
- 外部講師を活用した食育への積極的な取り組みを行う。全学年で、段階に応じた内容の食育講座を行ったことに加え、1～4年では食育推進ボランティアの方を招聘し、「何でも食べよう」をテーマに食の大切さについて学び、5・6年では上級食育指導士 蛭田さゆり先生を招聘し、「体によい物を食べよう」をテーマにこれからの食生活について考える機会をもけることができました。今後も望ましい食習慣を自分で考えられる子どもの育成を進めていきたいと思います。
- 児童への放射線教育では、文科省委託事業の公益財団法人日本科学技術財団より講師の先生をお

招きして放射線に関する授業を行い、身の回りにある放射線について実験を交えながら放射線の基礎知識について学ぶことができました。

3月には「3.11集会」を実施いたしました。震災から13年が過ぎました。震災の年に生まれた子どもが、間もなく卒業を迎える6年生になります。震災の記憶はもうほとんどないと言ってもいい状況です。しかし、福島に生まれ、福島に育つ子ども達が、震災の記憶を風化させないために、次世代に正しい記憶を伝えていくためにも、教育の現場で正しい知識と指導し伝えていく力を育成していきたいと考え、集会を行いました。6年生が中心となって、震災を体験した方の話を、全校生に分かりやすく伝えることができました。

- 毎日、給食や食材の検査（学校給食放射性物質測定）を行い、安全であることを確かめた上で調理し児童に提供しています。
- 今年度は学区内外で児童生徒に対する声かけ事案とは発生しませんでした。どのような場面でも瞬時に連絡が取れるように、メール等で情報の提供をする準備を整えています（マチコミメール）。関係機関や地域の方とも連携しながら児童の不審者による被害防止を図る取り組みをしています。また、子どもたちの安心・安全を確保するため、児童登校後の昇降口の施錠の徹底、来校者のネームプレートの着用、見守り隊やこども110番の家、警察を始めとする関係機関との連携を今後も継続していきます。

また、次年度より、児童の安全、安心を第一に考え、職員の勤務時間の適正化も図るために、登校の時間を20分程度繰り下げるように提案し、学校運営協議会や保護者からも賛同を得て、実施することになっています。ご理解とご協力をお願いします。

～特色ある教育の実践～（成果と課題）

- コロナ禍が第5類に移行し、教育機会が広がりました。従来行っていた地域人材や外部講師を積極的に活用し、体験活動等の充実を図ることができました。

阿久津曲がりネギの保存会会長橋本様を講師として年間の活動を通して指導を仰いだ。苗づくり（2年）から苗植え、収穫までを体験した「阿久津曲がりネギの学習」（3年）、琴の演奏家を招いて演奏体験をした「和楽器教室」（4・5年）、ソフトバンク株式会社の協力を得て Pepper 君（AI）による学年の実態に合わせた様々な学習、公民館や日頃お世話になっている人にお話を聞く「地域探検」（2年）、図書館司書や読み聞かせボランティアによる「朝の読み聞かせ会・クリスマス読み聞かせ会」（全学年）、人権について学んだ人権教室など、多種多様な学習内容を実際に体感しながら学ぶ経験することができた。学校運営協議会で活発な意見を出し合い、年末には、門松づくりにも取り組むことができました。次年度以降においても、学校の特色を生かし、地域や家庭との連携を取りながら、来年度も様々な体験活動を予定しているところです。
- 朝の1時間目からの授業に落ち着いて取り組めるように、毎週火・木曜日の朝にスキルタイムを設け、学習習慣の定着や学力向上に取り組んでいます。学びの足跡を振り返ることができるよう独自の問題を作成したり、スキル学習に取り組んだりもしてきています。児童が落ち着いた状態で1限目に臨めるようになってきています。また、毎週月・水・金曜日の朝は、読書タイムとして、全校生で読書に親しむ習慣作りに努めてきました。一人一人の読書数が増えてきています。図書館の環境を改装し、子どもが好きな本をより選びやすくもしました。その結果、自分の好きな本がすぐに見つかり、図書館での貸し出し数も増えてきています。読書習慣の定着を目指しています。

- 陸上競技交歓会では、女子4×100mリレーで、校内の新記録を打ちたてるなど、走力の向上とチームワークの良さが目立ちました。個人でも男子1000mで上位入賞を果たすなど、コツコツと努力する本校の子どもの良さが結果として表れています。半面、運動に取り組まない児童も増えてきています。運動の二極化です。生涯にわたり、健康の保持増進を目指し、楽しく運動に取り組める子どもの育成、環境の再構築について家庭との連携も必要になってきます。本校においては、教育課程編成時や日頃の授業実践で出てくる課題を取り上げ、運動好きの子供を育てる取組について協議を重ねています。
- 各種作文や書道、絵画コンクールなどに積極的に参加し、たくさん入賞する児童が出ました。福島県算数・数学ジュニアオリンピックでは、算数好きの児童が積極的に参加することができました。今後も積極的なコンクール等の参加を奨励し、一人一人の子どもが持っている良さを伸ばしていきたいと考えています。

アンケートへのご協力ありがとうございました。

平成6年度以降においても、末永く変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

令和5年3月15日

郡山市立東芳小学校